

第99回(平成29年度 第1次)新技術開発助成の募集

(公財)新技術開発財団

当財団の新技術開発援助は「独創的な新技術の実用化」をねらいとしており、基本原理の確認が終了(開発段階終了)した後の実用化を目的とした開発試作を対象にしています。

■企業の要件

(1)資本金3億円以下または従業員300人以下の自ら技術開発する会社 (2)大企業、上場企業、その関係会社でないこと

■開発技術の要件

(1)独創的な国産技術であること (2)実用化を目的とした開発試作であること (3)実用化の見込みがある技術であること
(4)開発予定期間が原則として1年以内であること ほか

■助成金額: 試作費合計額の4/5以下で2,400万円を限度

■受付期間: 平成29年4月1日～4月20日(締切日消印有効)

■問合せ先: (公財)新技術開発財団 TEL:03-3775-2021 FAX:03-3775-2020 URL:<http://www.sgkz.or.jp>

平成29年度地域産学バリュープログラムの公募(予告)

JST(国立研究開発法人 科学技術振興機構)

マッチングプランナープログラムは、平成29年度から地域産学バリュープログラムへ名称を変更し、新たに3月下旬以降、新規課題の募集を開始する予定です。

詳細につきましては、公募開始後、当ホームページに掲載予定の公募要領等をご覧ください。

■公募名称: 地域産学バリュープログラム

■公募開始時期: 2017年3月下旬以降(予定) 研究開発費: 基準額300万円(予定)

■金額についての詳細は現在検討中です。公募要領を必ずご確認ください。

■問合せ先: 科学技術振興機構(JST)イノベーション拠点推進部 地域イノベーショングループ
マッチングプランナー プログラム担当 TEL:03-3775-2021 FAX:03-3775-2020

URL: <http://www.jst.go.jp/mp/index.html>

※事業実施には平成29年度当初予算案の国会での可決・成立が必要となります。

年度末のご挨拶

早くも平成28年度最終月の3月を迎え年度が変わる時期となりました。皆様には1年間大変お世話になりました。

さて、本学産学連携部門の本年度特記としましては、URA室が設置され機能し始めた点が挙げられます。このことは以前にもお伝えしましたが、URAとは(ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレイター)の頭文字をとったものです。大学ごとに異なりますが、本学でのミッションでは学内研究力などベンチマーク解析を基に、研究フォーメーションを検討して競争資金を獲得する戦略を立てる人材部門となります。

数年前まではこのような機能分解がされていませんでしたので、もっぱらコーディネータが何でもこなすという便利屋型でしたが、良くも悪くも機能整備されてきたということになります。

少し気が早いかもしれませんが、平成30年度ではいよいよCOCの文科省資金が終了することから、今後地域とのつながりをどのように大学の自前機能として取り込んでいくのかが議論されていきます。以前も申し上げました通り、文科省では大学における企業との共同研究の在り方の見直しを迫ってきておりまして、大企業との研究事業モデルと中小企業と手を携えるモデルとを両睨みしながらのバランス追及が始まるかもしれません。

では皆様、来年度もご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。
(記: 還田 統括コーディネータ)



【発行 2017年 3月 23日】



国立大学法人 山梨大学
研究推進・社会連携機構
新技術情報クラブ事務局
〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37
TEL:055-220-8754 FAX:055-220-8757
E-mail: renkei-as@yamanashi.ac.jp
URL: <http://www.scrs.yamanashi.ac.jp/>

大学TOPICS

山梨大学客員社会連携コーディネータ委嘱式および研修を実施

平成29年3月3日(金)、甲府キャンパスにおいて、山梨大学客員社会連携コーディネータ研修を実施しました。客員社会連携コーディネータは、本学と包括連携協定を結んでいる自治体や金融機関等のネットワークを活用して、大学の研究成果を地域で有効利用するとともに、社会連携活動の推進に携わる人材の育成を図り、さらなる地域の活性化に資することを目的としたもので、平成18年度に創設した制度です。

研修会では、早川正幸理事・副学長による開会挨拶の後、社会連携・知財管理センター職員による本学の産学連携活動やシーズの紹介、各連携企業による活動事例の発表、地域連携コーディネータの内藤久俊氏による事業の報告がありました。研修後には委嘱式および表彰式を行い、平成29年度のコーディネータを13機関300名に委嘱するとともに、平成28年度に顕著な活動を行った4名を表彰しました。



客員社会連携コーディネータ集合写真

平成28年度 燃料電池関連製品開発人材養成講座閉講式を挙行

平成29年2月24日(金)、山梨県立図書館において、平成28年度 燃料電池関連製品開発人材養成講座閉講式を挙行しました。本講座は、本学の40年余の燃料電池に関連する研究実績・成果・知見等を踏まえ、県内産業界の社会人技術者等を対象に、燃料電池の設計開発に必要な幅広い知識・技術を修得し、本分野へ企業の参入を促進するための人材を育成する目的で、山梨県からの委託で設けられました。本学教員や多くの企業・団体講師による全60コマ(90時間)が行われ、今年度は受講生全員の26名が修了しました。早川正幸 理事・副学長による開会挨拶の後、平井敏男 山梨県産業労働部長が修了生への労いと今後の活躍への期待を述べました。



飯山室長より修了証書を授与

平成28年度 医療機器設計開発人材養成講座 閉講式を挙行

平成29年2月14日(火)、医学部キャンパス 融合研究臨床応用推進センターにおいて、「平成28年度 医療機器設計開発人材養成講座」の閉講式を挙行しました。この講座は、山梨県と連携し、今後成長が見込まれる医療機器産業に関わる人材を育成し企業での事業化や雇用の創造を図ることを目的として、平成27年度から実施しています。今年度は、講義を履修し、修了要件を満たした受講生19名が修了しました。閉講式では、島田眞路学長による挨拶の後、立川弘行 山梨県産業労働部次長から本講座の受講状況や本県における医療機器産業の現状を踏まえ、修了生の今後の活躍に期待する旨、挨拶がありました。



岩崎副学長より修了証書を授与

やまなしMiraiリーダー「SHINGEN」養成セミナー&ワークショップを開催

平成29年2月7日(火)から8日(水)の2日間、山梨県立図書館において、やまなしMiraiリーダー「SHINGEN」養成セミナー及びワークショップを開催し、学生、企業・自治体関係者、県内大学教職員など延べ120名が参加しました。これはNPO法人「大学コンソーシアムやまなし」設立10周年記念として、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」とNPO法人大学コンソーシアムやまなし「県民コミュニティカレッジ事業」との共同事業です。7日(火)は、本法人理事長の島田眞路学長による開会挨拶の後、「やまなしの課題を『見える化』する」と題し、山梨が抱える課題を仮想の人物像「ペルソナ」を用いて分析するセミナーを開催しました。



熱心に聞き入る参加者

山梨大学特許最新情報

山梨大学が出願した最新特許情報につきましては、非公開の情報も含まれますので

会員 以外には公開しておりません。

産学官連携 TOPICS

「H28年度農商工連携マッチングフェア」に出展！

山梨県商工会連合会・県下各商工会が主催する「平成28年度農商工連携マッチングフェア」が1月25日（水）甲府富士屋ホテルで開催され、山梨県の中小企業者や農林漁業者等が開発した商品等が一堂に展示・紹介されました。商談等に結びつけるビジネスパートナーとのマッチングを行い、新たな商品の開発や取り組みを促進するもので、会場内にはバイヤー等による「個別商談会」コーナーが設置され、自社商品を直接売り込む機会が設けられました。本学ブースでは生命環境学部生命工学科の研究室紹介、応用微生物学研究室の放線菌・水耕栽培の研究紹介、ワイン研究をはじめとする技術シーズおよび共同・委託研究や学術指導など社会連携活動を紹介しました。本年度は第7回となり80社以上が出展しました。色々な商品やその販路の開拓が期待されます。



賑う会場

本学ブースにきた農業女子

「テクノプラザおかや “ものづくりフェア2017”」に出展！

「テクノプラザおかや “ものづくりフェア2017”」が2月3-4日に岡谷市の二会場で開催され、本学はラオカヤ2F特設会場に出展し、ポスター展示と技術シーズ集などを配布しました。ポスター展示では、工学域研究者（安藤准教授、青柳准教授、阿部助教、浮田助教）のものづくり系研究とやまなし水素・燃料電池ネットワーク協議会「やまなしFCスタック開発プロジェクト」を紹介しました。本フェアは、岡谷市がものづくり企業の製品を一堂に集めて情報発信するもので、ものづくりの素晴らしさを多くの方々に知ってもらうことを目的としています。とりわけ将来を担う子供たちに、ものづくりの尊さや面白さを知ってもらう「岡谷の工業の礎を築く場」ともなっています。今回は、延べ4,694人もの来場で盛大なものとなりました。また、本学の技術シーズ集は準備した全てを配布することが出来 嬉しいと共に、ものづくりへの関心の高さを感じました。



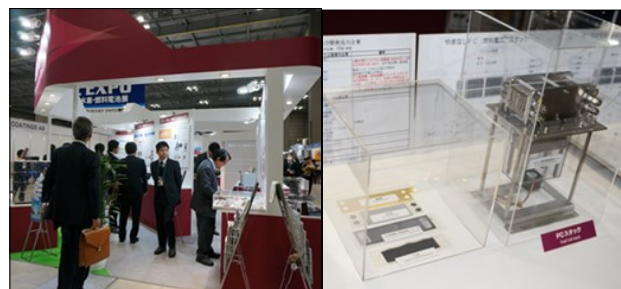
話を聞く小学生

本学ブース

見学の学生達

「FC-EXPO 2017」に出展！

FC EXPO2017第13回国際水素・燃料電池展が3月1(水)~3(金)に東京ビッグサイトにて開催され、本学は山梨パビリオンに他の7社と共に出展しました。2015年7月から「水素・燃料電池ネットワーク協議会」が設立されて活動を推進してきておりますが、その中で開発・試作された燃料電池スタックが展示されました。昨年までと比べて山梨での取り組みが他県に認知され始めたという感触を得ておりまして、他県からも連携希望の声が聞こえています。また、本年度実施した「燃料電池関連製品開発人材養成講座」の発表にも多くの関心が寄せられました。来年度も開催予定ですので、参加ご希望の方はご一報ください。



賑わう山梨パビリオン

燃料電池スタックの展示

コーディネータ による【研究者紹介】

水素・燃料電池技術支援室 准教授 岡 嘉弘 （おか よしひろ）

今回は、水素・燃料電池技術支援室の岡嘉弘先生をご紹介致します。

岡先生は富士電機で35年間にわたり燃料電池をはじめとするエネルギー関連の研究に従事された後、2015年10月に本学 水素・燃料電池技術支援室の准教授に就任されました。現在は本学が山梨県、公益



やまなし水素・燃料電池ネットワーク協議会

財団法人やまなし産業支援機構と連携してすすめる「やまなし水素・燃料電池ネットワーク協議会」に参画し、山梨が「水素・燃料電池バレー」と称される燃料電池関連産業の集積地・情報発信地となることを目指して活動しています。

主な活動内容は、県内企業と本学とが協力してすすめる「やまなしFCスタック」開発、および県内社会人技術者を対象とした「燃料電池関連製品開発人材養成講座」があります。「やまなしFCスタック」開発は1年間のプロジェクトです。その成果をFC-EXPO2017で展示しました。さらに将来のビジネスについても検討しています。昨年7月に開講した「人材養成講座」は基礎からアプリケーションまで講義と実習の幅広い内容のもので、本年2月に修了式を行いました。ここから多くの人材が育ち、山梨県の燃料電池関連産業を築き発展させていくことでしょう。

皆さん、燃料電池関連産業分野への参入についてご相談があれば、岡先生をご紹介致しますので、ご連絡下さい。（記：最上 産学連携コーディネータ）



岡 先生

新技術情報クラブ イベントほか

第15回アカデミックサロンを開催しました！

第15回アカデミックサロンを平成29年2月17日（金）午後4時から甲府駅北口「CAFE 風土」にて開催しました。工学域機械工学系（情報メカトロニクス工学）の小谷信司（こたにしんじ）教授から「生きる力と喜びをもたらす生活支援ロボット、農業支援ロボット」のテーマで講演を戴きました。生活支援ロボットでは「盲導犬（歩行ガイド）ロボット」、農業支援ロボットでは「モモシクイガ被害果検出システム」の説明がありましたが、人の自立を助けた人が出来ないことをして人を幸せにすることが重要なことだと再認識しました。「ロボットは人のアシスト」ですね。「困っている人を助けてあげたい」という先生の研究に掛ける情熱を感じる講演で、多くの出席者から同様の感想を戴きました。



小谷先生の講演と出席者



第2部は弁当とワインで歓談

今年度第2回クラブ交流会を開催しました！

本クラブの2016年度第二回交流会を3月8日（水）15:00に本学にて開催し、13社から20人が出席されました。内、見学の方は4企業6人でした。交流会では、大学からの挨拶の後、工学域機械工学系 船谷准教授の講演「気流の3次元温度・速度計測システム」、続いて生命環境学域生命農学系（生命工学）応用微生物研究室および図書館の大村智先生ノーベル医学・生理学賞受賞記念展を見学しました。交流会での研究室見学は初めてでしたが、山村先生と大学院生2人が分り易くしっかりと説明してくれ大変好評でした。その後、18:00より中華料理を食べながらの懇親会を行い、和やかな雰囲気できちんと談笑できました。さらに楽しい交流会に行きたいと思っております。



大学よりご挨拶

船谷先生のご講演

クラブ会員企業様を訪問しています！

昨年11月よりクラブ法人会員様へのご訪問をしております。本年度は7企業1団体への訪問を実施し昨年度と合せてほぼ全ての法人会員様を訪問したことになります。お忙しい中、ご対応戴きまして有難うございました。訪問時には、企業代表より「山梨県を元気にしたい！そのために会社としてはxxの立ち位置でxxをしたい」という様に、明確な経営理念や方針を直接聴くことが出来、大きな刺激を戴いています。私共も、将来の山梨県像を企業・団体とも共有しながら大学としての取り組みをしっかりと考えねばと思っております。

会員様のご希望に合った独自の訪問を追及していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。



(株)エーティシステムズ様 2017.1.20

東京エレクトロ(株)様 2017.1.23

(有)エース開発様 2016.12.6

(株)YSKe-com様 2017.1.24

ニスカ(株)様 2017.1.31